

ホケンダイつきいちゼミ(2025年7月号)



Q1.研究テーマを教えてください。



A.東南アジアのラオス人民民主共和国の農村地域に暮らす住民を対象として、食べている食品の多様さとソーシャルキャピタルの関連を研究しました。



Q2.お名前と今の仕事の内容を教えてください。



A.福岡県久留米市 社会医療法人雪の聖母会の職員ですが、グループ法人のISAPH(アイサップ)に出向し国際協力(ラオス🇱🇦マラウイ🇲🇼)に従事しています。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年7月号)



Q3. 研究室名とリーダーの先生を教えてください。



A. 国際地域栄養研究室で、リーダーは三好美紀教授です。



Q4. どうしてその研究をしようと思ったのですか。



A. 栄養の問題は子どもの死亡の45%に関連していると言われます。予防可能な死亡・病気を避けることができる社会の実現に少しでも貢献したかったからです。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年7月号)



Q5.それはどんな研究ですか。



A.ラオスの農村部では、食物の調達市場で買う以外にも、狩猟・採集・栽培も一般的です。その環境では、「他者との繋がりが強い世帯ほど、色々な食物を手やすくなる」のでは、と仮説を立てて検証しました。



Q6.どんな成果が得られていますか。



A.仮説が立証されました。他者との繋がりが強い世帯ほど、多様な食物を消費している(きっと子どもの栄養不足も少なくなる)ことがデータから裏付けられました。

ホケンダイつきいちゼミ(2025年7月号)



Q7.この結果をどんな人にどのように活用したいですか。



A.**ISAPH**は、ラオス農村部の子どもの**栄養改善活動**を実施しているので、**住民同士の繋がりを強めることで**、子どもたちに多様な食物が届くように活用したいです。



Q8.皆さんにメッセージをお願いします。



A.**数字**は客観的で、文化が異なる外国でも同じ意味を持つため、結果は説得力があります。多様なメンバーが一つの目標を共有するためにも**研究**は僕にとって大切な技術です。是非、一緒に学んでいきましょう！

ホケンダイつきいちゼミ(2025年7月号)



最後に、研究のことをもっと知りたい！大学院のことをもっと知りたい！場合は、どちらにコンタクトすればいいですか？



特定非営利活動法人ISAPH(アイサップ)
事務局長 佐藤 優(さとう ゆう)
メールアドレス: Yu-sato@isaph.jp
よろしくお願いします！



佐藤様、ありがとうございました。
保健大学では、毎月、その年のテーマに沿って、
情報を発信していきます！！